

事務事業評価における総括

部 局 名	建設部	記入責任者	橋口 真澄
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>建設部は道路、公園、市営住宅等の定例定型的な維持管理業務が多いため、全体としては、例年どおり順調に推移しております。業務計画に位置付けた事業についても、30事業のうち17事業でS評価、8事業でA評価、2事業でB評価としていることから、成果としては概ね順調と考えております。</p> <p>しかしながら、外部的な影響が伴い成果としてこれからの事業の3事業は、C評価としております。</p> <p>C評価とした3事業は、用地買収交渉が難航したことや国庫補助金が充当できずに事業目標が達成できなかったものや、協議が継続しているものなど、今後の成果としては、見込めるものです。</p> <p>したがって、全体としては、5課の事務事業、86事業において57事業、約66%がS評価ですが、昨年度は約75%であったことから、今年度は、指標の達成度の弱さが感じられますが、目に見えるモノだけではないプロセスを含めると、成果としては、着実に積み重なっていると評価しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>達成したものとしては、建築課の「家賃の賦課・徴収」につきましては、さまざまなアプローチを継続的に仕掛けることにより、現年度分住宅使用料の徴収率を100%とすることができました。</p> <p>道路管理課「茅ヶ崎駅南口駅前広場改修事業」、道路建設課「浜園橋橋りょう整備事業」のC評価については、国庫補助金が十分に充当されなかったことや、関係機関との協議・調整に期間を要したことから、指標が達成できなかったものです。</p> <p>建設部は、道路や公園等のインフラ整備事業を主体としているため、事業の達成状況は財源確保に大きく左右されることとなります。また、長期間にわたる用地交渉や関係機関との協議・調整など、さまざまなプロセスに時間が要し、いろいろなハードルを越えていかなければならないため、これからも、住民に目に見えた形で、成果に結びつけることが、なかなか難しいことが課題であると考えております。</p>			

今後の方向性

【政策・施策目標の達成に向けた各事業の今後の方向性について】

昨年度に引き続き、交付金等が幅広く配分される傾向にあり、一つ一つの財源確保が厳しく、道路・公園整備や地籍調査など進捗が大きく抑制される要因となっております。

しかしながら、建築課「市営小和田住宅」は実施設計が完了し、工事着工に向けて準備を進めており、公園緑地課「柳島キャンプ場管理運営事業」は、指定管理者制度を導入し、通年で楽しめるレクリエーション施設として、しっかり運営してまいります。

また、提案型民間活用制度を活用している「狭あい整備事業」、「市営住宅の補修・修繕」と「公園緑地等管理運営事業」については、これまでの事業実績を踏まえ、新たに維持管理の視点をプラスし、「市営住宅における施設点検・修繕業務の一括委託」や「公園の遊具、道路の点検業務」に取り組んでまいります。

これからは道路、公園、市営住宅等の維持管理業務の重要性はますます高まり、市民生活の安全・安心に直結するため、しっかりと優先順位を付けながら、遂行していかねばいけないと考えております。

いずれにしましても、建設部は道路等のインフラ整備を主体としているため、政策・施策目標の達成に向けては、財源の確保が大きな課題となっておりますが、単年度毎の事業が計画どおり成果が得られるよう業務内容に応じて、対応しやすいソフト面にアイデアや工夫を重ねて、可能な限り業務の効率化を図ってまいります。